

解 答



問一 A 分別 B 対象 C 経験 D 過程 E 定義

問二 1 オ 2 ウ 3 ア 4 エ

問三 a ウ b エ

問四 筆者の言う「自由」とは、まず「思う」ことから始まるが、動物は人間とはちがって最初からその「思う」ということをしないと思われるから。

問五 ア 問六 体 問七 子

問八 I 目的 II 肉体的 III 不健康 問九 ア

問十 「自由」とは「自分の思い通りになること」だが、それを手に入れるためには、まず自ら「思い」、その「思い」にもとづいて自ら行動することが欠かせない、ということ。



問一 ウ 問二 ② ア ③ イ

問三 おばさんにうそをついてしまったことに後ろめたさを感じているが、それ以上に、おばさんが愛していた今はなきタケシくんにもうそをついてしまったことに、いたたまれなさを感じているから。

問四 自分がヨッチャンと友だちだといううそを否定することがいっそうしづらいふん囲気になってしまい、何も知らずに喜んでいるおばさんを前に、どうふるまったらよいのかわからなくなってしまったから。

問五 ウ 問六 てくれた。

問七 1 イ 2 エ 3 ク 4 ウ

問八 やっぱりヨッチャンと友だちになりたいという気持ちがあるから。

問九 ウ

問十 今はもうヨッチャンと本当の友だちになれたと確信しているから。

解 説

一

問四 作者の考える「自由」については1ページの7～10行目にまとめて述べられているが、ここで特に重要なのは「自由であるためには、まず『思う』ことがなければならない」の部分である。人間以外の動物は何かを「思って」行動するのではなく、2ページの2～3行目にあるように、ただ毎日決まった行動をとっているだけなのだ。従って、動物とはそもそも自由ではないものであり、不自由を認識することもありえないのである。

問六 三カ所の空欄の前後をそれぞれよく読むこと。「体が頭脳に要求している。頭ではもっとしたいことがあるのに、体がいうことをきかない」「体は、この要求をあたかも『したいこと』のように頭脳に訴え、これが『肉体的欲求』となる」「体の欲求に応えることはとても大切」などから、「体」の一語は容易に抜き出せる。

問七 「元も子もない」は「すべてを失って何もない」ということ。ここでは「意味がない」という程度の意味。

問八 I 1ページ1行目を参照。本文冒頭にある。II 2ページ17行目～3ページ9行目から、「健康であることは体の（＝肉体的）欲求である」という筆者の考えが読み取れる。3字でという指定なので答えは「肉体的」。III 3ページ7～8行目を参照。

問九 「適当でないものを」という指定に注意。問題箇所的前後から「自分の体のコンディション」＝「背負わなければならない荷物」＝「捨てるわけにはいかないし、交換することもできないもの」＝「他者とくらべて重いと嘆いても軽くはならないもの」というつながりが読める。

問十 問九の内容ともつながるが、大人とは毎朝起きたときから“自分の荷物”を持って歩き出すものであり、進む方向は自分で決めるべきであると作者は考えている（3ページ12～15行目）。また、「自由な」すなわち「自分の思いどおりにできる」存在である大人は、まず思い、行動あるいは思考し、結果として満足を感じるものであるとも述べている（1ページ7～9行目）。すなわち「歩き出す」とは、自分自身でもの思い、考え、決断し、実際に行動をはじめるということを意味しているのである。

二

問一 問題箇所の前後にヒントあり。「一週間前までは、確かにそうだった（＝いろいろ面倒を見てくれて、すぐに友達になれた）」。しかし、前書きには「男子のリーダー格のヨッチャンとは、この一週間の間になじめなくなってしまっていた」とある。おばさんの手前うなずきはしたものの、「少年」の心中は複雑である。

問二 ②問題箇所の前後「そうかあ、ヨッチャンと友だちかあ……」とおばさんがうれしそうに微笑んだ→「おばさん

はもっとうれしそうに②と言った。」→「少年がしかたなく『はあ……』と応えた」という流れに注目。おばさんにとってはすごくうれしいことで、少年が同意せざるをえなかったこととは何かを考えよう。③ヨッちゃん「少年」の関係が今はよくないこと、タケシくんのことを知らないはずの「少年」がこの場にいたことをヨッちゃんがどう感じたかを読み取ろう。

問三 ヨッちゃんは生前のタケシくんの親友だった子である。本当は仲直りしていないのに、タケシくんの写真の前で仲良しを演じることは、おばさんに嘘をついていること以上に心苦しくまた居心地の悪いことだったと想像できる。

問四 問三のような心境でいたところ、そうとは知らぬおばさんに「タケシも喜んで」と言われてしまったため、本当のことをいっそう話しづらくなり、また帰るに帰れなくなってしまった。かといってどうしたらよいかはわからずに頭に血が上るばかり、そんな自分の気持ちをさとられまいとゲームに夢中なふりをしたのである。

問五 9ページ1～2行目に注目。仕方なく仲の良いふりをしていただけの「少年」とヨッちゃんの心が、少しずつ通い始めているのがわかる。そのヨッちゃんを放っておいて一人で先に帰ることなど、「少年」には出来なかったのだ。

問六 9ページ23行目～10ページ1行目には「いままでとは違う——転校したての頃とも違う笑い方だった。」とあるが、その直前にヨッちゃんが笑っているという描写はない。抜き出された文を入れるとうまくつながる。

問八 問五でも見たが、「少年」とヨッちゃんは9ページ初め～10ページ2行目にかけて少しずつ打ち解けていっているのがわかる。「少年」はヨッちゃんと本当の友だちになりたいと思うようになったのである。

問九 ヨッちゃんはタケシのことを今も親友だと思っているので、おばさんにもう来るなど言われたことが、不本意なのだ。

問十 問題箇所「そういうの」とは、「ヨッちゃんに対する口のききかたにいちいち気を遣うこと」を指す。本当の意味での友だちになれた今、他人行儀な気遣いは無用となったのである。